

在日中国系ニューカマーの滞在意識

神戸大学 張偉霞

1 目的

この報告の目的は、日本における中国系ニューカマーを対象とし、彼らの滞在意識やアイデンティティを検討するものである。

近年、日本における華僑社会に新しい現象が加わるようになった。留学生として来日し、日本で職を得て定住する中国人が少なくない。このように中国人留学生の日本における就職増加に伴い、日本滞在の長期化、更に永住・帰化志向が見出され、日本における新華僑華人社会が形成されつつある。本研究は面接調査などのフィールドワークを通して中国系ニューカマーの状況を把握し、彼らの滞在意識やアイデンティティなどを明らかにすることを試みる。

2 方法

そこで、データとして、報告者が2013年～2015年にかけて神戸と東京を中心に行った調査を用いる。本報告では16名のデータを取り上げて中国系ニューカマーたちの日本における滞在意識やエスニック・アイデンティティの様相を解明する。

在留資格の観点の基本とし、子どもの有無及び既婚／未婚という観点を補足とすることによって新たな分析モデル類型を構築し、人々の意識の面から在日中国系ニューカマーを分析する。

3 結果

滞在意識について、日本国籍を取得した中国系ニューカマーは日本社会の一員として日本で生活を送っている。永住資格をとった中国系ニューカマーは退職後、老後、子どもが大学を卒業した後、子どもが結婚した後という、彼らが定義した「将来」のある時点で帰国する意図がある。ビザ更新によって滞日している中国系ニューカマーは比較的に不安定で、将来に対する選択肢が多く存在する。その多くの選択肢の中で、たえず決定しようとしている。そしていつか帰国する意志が強い。結婚して子どもがいないニューカマーは一般的に10年間を区切りとして予定を立てている。10年以内に帰国する予定はないが、10年後また状況をみて予定を立てる。独身のニューカマーは自分の滞在意識について自分でもはっきり語れない状態で日本と中国二つの社会で動揺している。

アイデンティティについて、日本における中国系ニューカマーの親世代は中国で初期教育を終えて、中国文化を内面化してから日本にきたので、国籍を簡単に変えたとしても、エスニック・アイデンティティを持っている。しかし、そのエスニック・アイデンティティの様態は皆が一緒だとも言えない。

紙幅の都合により、日本における中国系ニューカマーの滞在意識が形成する要因、影響、及び彼らのエスニック・アイデンティティの様相について大会報告の際に提示する。

文献

坪谷美欧子, 2008, 『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ—中国からの日本留学にみる国際移民システム』 有信堂高文社.

過放, 1999, 『在日華僑のアイデンティティの変容—華僑の多元的共生』 東信堂.